

寒中お見舞い申し上げます。今年の冬は誠に寒い。11月から冬に入ったので期間が3ヶ月になろうとしています。流石に堪えますね。日本海側は雪ばかり、太平洋側の天気は晴れて乾燥しておりますが、北西風が厳しく吹く氷点下の毎日です。長い冬の時期が続くかと思うとやるせない。何十年ぶりの異常低温が起り、極寒の日々が続き、風邪が増えてきておりますので、ご自愛ください。

1月26日に仮想通貨取引所コインチェックから580億円相当の仮想通貨「NEM（ネム）」が流出した。580億円相当の仮想通貨が盗まれた？消失してしまった。仮想通貨は2009年に出現し、あれよあれよと言う間に何百倍に跳ね上がった。ビットコインは2009年に登場した。2016年以前にビットコイン等の仮想通貨を購入していた人は10倍、100倍、1000倍になって億万長者となっている。若い人で「億り人」と呼ばれる人が多く出現している。仮想通貨は暗号通貨と呼ばれ簡単に外国にまで送れ、電子決済ができることから株式市場や債券市場の資金が流入して投機の対象になって暴騰した。私も購入しようとして手続きを始めたがネット人でないので、上手く購入することが出来なかった。そうこうしている内に今年になって半値になってしまった。それに追い討ちをかけるかのように今回の騒動である。コインチェック側の甘さ、不用心さによる管理体制の脆弱さにより、やすやすと資金を抜かれた。ブロックチェーンの技術が破綻したとか、暗号が破られたのではなく、記者会見でも『確認中、検討中』の一点張りだったので、何も分からない状態のようです。「NEM」以外の通貨が失われる可能性も出てくるでしょう。しかしながら、ブロックチェーン技術は分散型データベース技術で管理の中心が不要となる。不特定多数の人達が参加しているので、全てが外から見えることによりお互いが監視することになっていて安全が確保できるのである。今回の流出した「NEM」は換金が難しいと言われている。全ての履歴が残るので、持っているうちはわからないが、現金にしようとするとなってしまう。

仮想通貨は国に認められていないから国際法定通貨にはなれないが、デジタル通貨がこれからの時代にマッチして、世間に認知され、席卷するものと思われます。

中国ではモバイル決済が主流となっています。偽札の心配もいらないのでコンビニではスマホだけで決済完了となるシステムの店が増えてきています。

1月25日、デジタル通貨に関するサービスを一元的に手がける新会社「ディーカレット」が設立され、創業者である鈴木幸一会長は会見の席で、「すでに中国では、現金のない社会ができています。日本が世界に遅れないため、さまざまなデジタル通貨が使える中立的なプラットフォーム＝土台を作っていく。あらゆる分野の企業が集まることで、取り組みの推進力が高まる」と述べた。ここには日本のそうそうたるメンバーが加入している。これからはデジタル通貨を支える「ブロックチェーン」と呼ばれる技術が世の中を変える。